

令和5年度
自己評価結果公表シート

認定こども園 けんしん幼稚園

1.本園教育目標
<p>① 普遍的な人格の形成を目指して豊かな情操を養い、挨拶や約束事など基本的な生活習慣を身に付ける。</p> <p>② 集団生活の中での強調を基本とする社会性を育てる。</p> <p>③ 運動・遊戯・園外保育及びバランスのとれた給食等を通して、身体機能の発育を促す。</p> <p>④ 「御仏様お参り」・「絵本の読み聞かせ」・「素話」等の教材を取り入れて、集中力を養う。</p> <p>⑤ 絵画制作などを通して創造性を伸ばし、音楽・リズム等に親しみながら音感を培う等を柱として、幼児の成長にふさわしい生活環境(人的・物的)を整え、また幼児一人一人の主体性が培われるようカリキュラムを組み、家庭との連携を密にしなが、すこやかな心身の礎を築く。</p>

2.本年度定めた重点目標
<p>◎ 認定こども園化に伴い、教育課程、指導計画の内容を確認し、新たに年間カリキュラムを作り替え、子どもの育ちに着目して計画し、実践していく。</p> <p>◎ 保護者や地域との連携を深め、信頼される温かな幼稚園づくりを目指す。</p> <p>◎ 様々な行事の内容も見直し、より保護者も園の活動に積極的に参加したくなるようなものにしていく。</p> <p>◎ 特別支援を必要とする園児に対する理解を深めるため、外部からの助言を積極的に受ける。</p> <p>◎ 新しい教育要領の中にある「卒園までに育てたい10の姿」を研修テーマとし、その姿に向かうための活動に取り組む。</p>

3.評価項目の達成及び取組状況		
評価項目	取組状況	評価
教育理念・教育方針に従った教育課程を編成する。	仏教園として、園の教育理念・教育方針の中心的な特色になるが、認定こども園としての『幼稚園教育要領』及び『保育所保育指針』に基づいて、『まことの保育』理念の理解を深め、仏参だけでなく現場の教育に添わせるような具体的な場面を考究して行くことが求められている。	B
幼児の実態を的確に捉え、具体的な手段を講じる。	日々の保育の中でのエピソードなどから、子どもの育ちを捉え振り返り、翌日の保育へと繋げている。子どもの主体性を大切に考え尊重し、一人ひとりの興味関心を見逃さず、十分に満たしていけるような環境構成や子どもとのかかわり方について具体的に考え、保育の充実に努めている。	A
園内研修の充実と、各研修会や研究会に参加してスキルアップを図る。	認定こども園に移行したことによって、0～5歳児までの幅広い乳幼児期の子供を受け入れるので、子どもの健康の保持および安全の確保に関する計画と実践についての園内研修を実施することができた。 特別支援を必要とする園児に対し、外部の助言などを積極的に受け入れることができたが、サポート体制は限定されているので、今後、保育者全員に学びの範囲を広げて行く必要がある。	A
地域や保護者への情報発信の充実を図り、保護者の要望や意見には適切な対応と満足度の向上に努める。	日々の保育の様子は、連絡ノートで共有したりしている。また、行事やクラスの様子は、園だより等でわかりやすく伝えている。送迎時は、子どもの様子を保護者に伝え、共に成長を喜び機会になっている。保育参観では、日々の保育を見てもらう機会となっている。さらに、園生活の様子を動画配信によって伝えたりしているが、制作等に相当の時間を費やし配信時期が遅れたりしているため、配信方法を工夫する必要がある。 今後、アプリやSNS等を駆使して日々の園内情報の発信を図り、保護者の子ども理解を深めることが望まれる。	B

安全管理・危機管理体制の充実を図る。	認定こども園移行に伴い、安全管理・危機管理体制の見直しを行い、園児の安全と安心を第一に、保育室等の避難経路や災害発生時の対応を考え環境を整えた。また、緊急事態が発生した場合には叱咤の判断が求められるので、職員が連携のもと臨機応変に対応できるよう努めていきたい。 また、0～2歳児を含めた毎月の避難訓練や、その他様々な災害を想定した訓練を行い、非常時に対する意識を高めることができた。今後もさらに様々な想定をして訓練を行い、全職員が非常時の対応について主体的に判断し、子どものいのちを一番に考えた行動ができるようにしていきたい。	A
認定こども園の特色を生かした保育活動の展開。	認定こども園では0歳から小学校入学前までの幅広い年齢の子どもたちが在籍しているので、異なる年齢の子どもたちが一緒に過ごせる環境や活動を積極的に取り入れることが求められている。それによって、さまざまな刺激や経験を得ることが教育上好ましいと考えられている。今年度は、認定こども園移行初年度なので、具体的な取り組みを実施しなかったが、明年度以降の計画に盛り込むことにした。	B
園の財務状況と積極的な公開。	事業報告書、財産目録、貸借対照表等を作成し、常にこれを事務所に備え置いて、閲覧の請求があった場合には正当な理由がある場合を除き、これを公開するように準備している。令和5年度の財務状況は、認定こども園への移行に伴い改善方向に推移しているが、少子化等の影響により、園児数の減少傾向は続いている。	A

4.学校評価の具体的な目的や計画の総合的な評価結果	
幼稚園型認定こども園に移行し、1号認定こどもに加えて、2号・3号認定こどもを新たに受け入れることになり、今まで以上に教育・保育の充実について全教職員で話し合うことが出来た。特に3号の保育については、ある一定以上の目標は達成したものの、まだまだ満足のいくものではない。さらなる努力が必要である。ハード面については、子育て支援に重点を置き、次年度に改修工事等行っていく予定である。	B

5.今後取り組むべき課題	
認定こども園に移行したことによる様々な課題を整理しておく。	今年度より幼稚園型認定こども園に移行し、2号・3号認定こどもの受け入れに伴い新たに棟を建設、給食室・乳児保育室を設置した。開始後も様々な専門家にアドバイスをいただき、ますますの環境作りを行い、特に安全面には細心の注意を払ってきたい。 認定こども園の教育・保育に関すること、教諭としての資質、教諭同士のチーム力は、自己発揮できているものと評価している。今後も、連携を大切により園児の成長を促すための取組に力を入れていく。 保護者との連携、地域との連携については、保護者の価値観の多様化による対応の難しさを感じているが、個々の保護者に寄り添った連携に努めることができていく。 保育の実践力、危機管理能力については、研修の時間の確保の工夫をし、さらに向上させていけるよう努力をしていきたい。
学級編成と保育活動の展開	学級編成上、満3歳児と3歳児を混合学級にしたが、満3歳児のほとんどは年度途中から入園、又は保育園部から順次移動してくるので、クラス運営に多少の支障が生じた。
指導計画の再編成と実践	認定こども園一年目を終えて、新たに編成した0歳からの年間指導計画を再検討する必要があるところを洗い出してみる。それを基に、園の環境や子どもの育ちに合わせ、「家庭との連携」をとった保育を、懇談会や面談などで分かりやすく説明し、協力を求め共有しておく。

6.学校関係者の評価(評議員会/PTA代表者会/保護者アンケート等から)	
子どもたちが「幼稚園大好き」「明日も幼稚園に行きたい」と思えるような環境作りと、園の様々な改善への意欲が感じられる。一人ひとりの個性を認め、子どもの意志を尊重した関わりと、子どもたちが伸び伸びと楽しく過ごしている様子が伝わってくる。これからも安心して子供を預けられる園であってほしい。 丁寧に保育・教育活動を進められていると感じる。どの評価項目も高い達成状況で保護者の理解を得ながら、信頼関係に根ざした運営がなされていると思う。	A